

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/3 (金)	1	4 田中達也	1、市の情報発信について	(1)11月1日に開設された「三豊市LINE公式アカウント」について 広報みとよの紙面で「今後は、皆さんが欲しい情報を選択し、効率的に情報を受信できるような配信方法について検討を進めていきます。」とアナウンスされているが、どのような検討状況であるか。 LINEによる配信は、短く分かりやすいことが重視され、従来の行政からの情報発信とは異なる作文が要求される。どのように実施しているのか。 (2)市長・市議会議員選挙の開票速報発信手段について 前回の選挙で、開票速報を公式Webサイトに掲載したところ、アクセス集中により長時間閲覧できない状態となった。一度対策についての答弁は得ているが、当時とはサーバーの形態が異なっている。どのように対策を行うのか。 LINE公式アカウントで速報をプッシュ配信し、公式サイトには事後掲載することで、回避する考えはないか。
			2、GIGAスクール構想実施上の問題点について	学校関係者にお話を伺ったところ、現場で問題を感じている点があることが分かった。 原因と対策について問う。
			3、スポーツ・文化活動の指導者に対する支援について	子どもたちが自由にスポーツを楽しむためには、地域内に指導者が必要である。また、正しい指導や安全性を担保するために、公認指導者資格の取得・維持が求められるが、その費用負担は大きい。今後はボランティア的に活動する指導者の金銭的負担を軽減することが、種目・団体を維持することにつながると思われるが、支援の考えはあるか。
	2	5 丸戸研二	1、農業振興対策について	(1)農業が置かれている現状認識 (2)第2次総合計画での位置付け (3)課題認識 ①市計画と現実の状況 ②自然環境 ③労働環境 ④販売価格の低迷 (4)当面の振興対策 ①既存の農業振興施策 ②農業支援制度の拡充 ③三豊市産農産物の消費拡大 ④国、県への要望
			2、デマンド型乗合タクシーについて	(1)中山間地域の生活現状 (2)多極分散型のまちづくり (3)デマンド型乗合タクシーの検討 ①令和4年度での試行 ②利用料金
	3	7 川北善伴	1、詫間庁舎周辺整備について	(1)令和3年第1回定例会において、詫間庁舎並びに詫間福祉センター等の施設について質問し、各年度ごとのスケジュール案を提示いただいたが、現在の進捗はどうなっているのか。スケジュールどおりに進んでいるのか。 (2)各種団体の活動場所の調整について 俳句やダンスなど16の文化団体が利用している詫間福祉センターと詫間勤労会館の使用が令和4年度からできなくなるが、利用調整やスケジュール管理はできているのか。 (3)避難場所について 詫間福祉センターは、現在、詫間地区第2分館の913世帯の避難場所となっているが今後どのような対策を取っていく予定なのか。

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/3 (金)	4	2 金子辰男	1、農地の保全と後継者の育成について	就農を促進し、農地を保全していくことが何より重要だ。そのために、市は何をすべきかを問う。
			2、教育委員会と学校の関係について	(1)子どもたちに対して効果的で充実した教育活動ができるためにはどうすれば良いのか。教職員が元気な学校は子どもたちも元気な学校だと考える。学校の先生が本来の仕事に費やす時間を増やすにはどうすべきか。子どもと関わる時間を確保するためにはどうすべきか。文書処理などに追われているのではないかと。教育委員会が学校現場の本音を知る機会を設けてはどうか。 (2)職員室には灯りが夜遅くまで点いている。先生方はゆとりがなく、本来の教育の現場の仕事ではない仕事が増えているのではないかと。教育委員会が学校を信頼し任せるような仕組みづくりができないのか。それが、最終的には子どもの輝きにつながるのではないかと。
	5	9 込山文吉	1、農業経営の収入保険について	農林水産省は、全ての農産物を対象に、自然災害による収入減少や価格低下をはじめ、農業者の経営努力では避けられない収入減少を保障する収入保険を新設、農業経営の安定を図っている。 これは、農業経営全体を対象としたセーフティネットで、品目の枠にとらわれずに、農業経営者ごとの収入全体を見て総合的に対応し得る保険制度としている。 (1)三豊市の農業経営者の加入率をお聞かせください。 (2)加入を促すため、収入保険の保険料等の補助を行っている市町も多いと聞く。三豊市の考えを聞く。
			2、要介護者のごみ出し支援について	環境省は「高齢者のごみ出し支援制度導入の手引き」を令和3年3月に発表し、高齢化社会に対応した廃棄物処理体制へシフトしていく必要性を訴えている。 三豊市においても要介護者の単独世帯や老々介護世帯が多く、ごみ出し支援は喫緊の課題と考える。 (1)要介護者のごみ出し支援の要望が環境部門と福祉部門で共有できているのか。 (2)環境省の手引きを参考に制度設計に着手すべきではないかと。
			3、JR高瀬駅トイレ改修及びホームのバリアフリー化について	高瀬駅の改修について聞く。 (1)トイレ改修についての状況を聞く。 (2)ホームへの階段をなくし、線路を横断してホームに向かえるように改修すべきではないかと。考えを聞く。
	6	18 西山彰人	1、都市計画に伴う道路計画について	都市計画区域が再編され、三野町と高瀬町が都市計画区域に追加された。都市計画に伴う道路計画がどうなるのか伺う。
2、詫間町のランドデザインに伴う市民の意見反映について			ランドデザインに伴う計画には市民の意見を反映させるとなっていたが、十分に市民の意見反映がされたのか見解を伺う。	

発言通告書の要旨(一般質問)

令和3年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/6 (月)	7	14 横山 強	1、新永康病院事業と地中障害物撤去費について	(1)9月の一般質問で、地中障害物撤去費に対する答弁、施工業者、設計監理者、CMに対する三豊市政の対応により、成果を広範囲に伺う。 (2)施工業者、設計管理者、CMによる当初の地中障害物撤去費の減額について三豊市に対し、どのような減額処置を示されたのか等を広範囲に伺う。 (3)今回の地中障害物撤去費に対する減額について、市立病院建設調査特別委員会に対しての説明と対応等を広範囲に伺う。 (4)9月の一般質問に対する答弁に対し、施工業者、設計監理者、CMに対し、三豊市は、各個別3業者に対し、減額処置としたのか、それに伴う問題点を広範囲に伺う。 (5)12月補正予算を計上している、新永康病院の隣接の用地の取得等、広範囲に伺う。
			2、設計業務の取り組みと予算の取り組み等について	基本設計と実施設計との問題点と、改善点と今後の方向性等を広範囲に伺う。
	8	11 高木 修	1、新しい交通政策について	交通政策課が誕生し、現在検討されている新しい交通政策と今後の展開策について示していただきたい。高齢化の進展で、市民の期待は大きい。
			2、道路舗装の計画的補修推進について	長年にわたって風雨にさらされ、道路舗装が相当傷んでいる。特に中山間区域ではその傾向が顕著である。お年寄りが歩行中につまずくといった安全上の課題も生じている。 現状を把握し、優先順位をつけた上で順次予算を振り向け、旧7町が均等となるように計画的な補修を実施していただきたい。
			3、在留外国人の現状について	在留外国人は、もはや産業の一翼を担う存在となっているが、過去3年間の増減がどのような状況になっているのかを問う。新型コロナウイルス感染症等の影響を懸念している。
	9	10 近藤 武	1、シビックプライドの醸成に向けて本市の取り組みについて	住民の地域活動の参加を促進し、地域の課題を解決する推進力として、シビックプライドを持つ市民が増えてきた、また大きくなってきたように感じる。これまでの本市の取り組みや、また今後どのようにシビックプライドを醸成していくのかを聞く。
			2、動物愛護・殺処分ゼロに向けての取り組みについて	香川県でも犬・猫の殺処分頭数は多い。これまでの本市の取り組みや今後について聞く。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和3年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/6 (月)	10	21 瀧本文子	1、三豊市役所におけるハラスメント防止対策について	2020年6月から、通称「パワハラ防止法」(改正労働施策総合推進法)が施行され、防止対策が、事業主に義務付けられた。いわゆるパワハラはダメということが法律で明確に規制されたことになった。三豊市は、これを受ける形で、今年6月に「三豊市職員ハラスメント防止に関する指針」を策定した。職員が生き生きと仕事ができる、その能力を十分に発揮できるような風通しの良い職場づくりを進めるために、その防止策及び対応について定めている。しかし、全国的にみても労働相談件数は毎年高水準で推移し、現状は、パワハラが減る気配はない。三豊市における現状及び相談体制、研修内容はじめ防止対策等について伺う。
	11	20 詫間政司	1、視覚障がい者支援センターの方向性について	三豊市福祉事務所の協力のもと、「みとよ視覚障がい者支援センターひかり」が結成され、当事者自らの運営により活動が始められている。現在、高松市にしか視覚障害者福祉センターがなく、三豊観音寺の視覚障害者の利用は極端に少ない。遠くて利用しにくいからだ。三豊市には支援センター機能を有する体制が整備されておらず、緒についたばかりだ。「ひかり」を核とした視覚障害者支援の充実に向けた、取り組みの方向性を問う。
	12	19 浜口恭行	1、詫間地域の諸課題について	本市詫間地域においては、詫間港を中心に塩田地帯から臨時工業団地としての発展をしつつ、産業の転換に対応してきたが、近年は、地盤沈下が懸念されている。 詫間地域での今後の振興策として、 (1)造船、支所跡地(詫間庁舎周辺整備) (2)JR詫間駅とJR詫間駅から詫間支所周辺部に連なるエリア (3)永康病院跡地 などは将来的にはどのような方向性やビジョンを描いて動いていく予定なのか。 また詫間港は香川県管理の地方港湾であり、本市唯一の重要な港湾として、 (1)詫間港ジブクレーンの売却 (2)民有護岸の補強対策 (3)水面貯木場の利活用 などは将来的に多くの課題も残しつつ、香川県と連携して、どのような詫間港の振興策についても描いていく予定があるのかも聞く。 浜街道の白方トンネル開通を来年3月に控え、丸亀方面のアクセス向上を詫間地域全般の活性化にどう繋げていくのか、当局の考えを聞きたい。
12/7 (火)	13	8 水本真奈美	1、子宮頸がんワクチンの積極的勧奨再開について	子宮頸がんワクチンは2013年に定期接種となり小学6年生から高校1年生の希望女子は無料で接種可能となったが、一方で2013年6月より国は積極的勧奨を差し控えるとしたため対象者への通知を中止し、接種率が1%未満にまで激減した。 (1)2020年10月に国から対象者への情報提供に関する指示に対する本市の対応 (2)通知実施世代における令和2年度の接種率及び通知未実施だった令和元年度の接種率 本年11月12日厚労省は国内外で有効性や安全性に関するデータが蓄積されたとして、子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨を決定した。 (3)本市の情報提供の方法についてどのような通知を考えているのか、周知対象と周知方法について伺う。
			2、女性活躍推進について	国は、新型コロナ感染拡大で孤独・孤立や解雇等に直面し、様々な困難や課題をかかえている女性を女性活躍推進交付金を活用し積極的に支援をする。 (1)女性活躍・男女共同参画の重点方針2021の受け止め (2)ひとり親に対する職業訓練促進給付金の促進 (3)女性のデジタル人材育成から就労までサポートし女性活躍を推進する考えを聞く。
			3、土砂災害警戒区域の危険度調査と対策について	(1)本市の土砂災害警戒区域の箇所数と大規模盛土造成地の箇所数 (2)現時点の調査状況と今後の計画や財政支援について (3)災害時の介護タクシー業者との緊急輸送協定を結ぶ考えについて

発言通告書の要旨(一般質問)

令和3年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/7 (火)	14	3 湯口 新	1、これからの公共施設について	これからの市内公共施設についての考え方を様々な面から伺う。
			2、クラウドファンディングやふるさと納税などの更なる活用について	「宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト」では様々な手段により資金の獲得を目指しており、続々と成果報告が聞こえてくる。反面、その他の学生スポーツの現場や子育て支援の現場では資金不足の声も聞こえてくる。ボールパークで培ったノウハウを他のスポーツや子育ての現場などにも活用するべきではないか伺う。
			3、結婚を後押しする施策について	コロナ禍で結婚式や披露宴、その二次会などが開催できず、籍を入れるだけになっているカップルや結婚自体を先延ばしにしているカップルがいると聞く。これは少子化問題にも関係する問題であり、またブライダルに関わる企業や飲食業にも大きな影響を与えている。結婚を意識している若者を後押しする施策や地域事業者の支援にもなる施策を提案する。
	15	13 坂口晃一	1、人口減少の対策を問う	(1)企業立地の条件、工業用水確保、工業団地の確保の策の計画はあるか。 (2)企業誘致の情報の対応、土地の規制緩和の考えを問う。 (3)空き家の対策について、活用方法と解体補助と税対策を問う。
			2、農業振興策を問う	(1)耕作放棄地の対策について (2)土地価格の暴落と相続の対応について
			3、財政健全化対策についての計画を問う	(1)公共施設の利活用のための戦略を問う。処分方式は財政悪化を招くが。 (2)職員の人数と意識改革はできているか。
	16	1 岩田秀樹	1、子どもの医療費18歳まで無料化について	中学校を卒業すると様々な支援制度がなくなってくる。その反面、高校は学校に関する費用だけでも多くなる。このような中、医療支援に関しては、全国でも5割近くの自治体で実施しており、自治体が成長を保障する取り組みが必要ではないか。
			2、インボイス制度導入について	10月から事業者登録申請が始まった消費税のインボイス制度。はじめは複数税率である。シルバー人材センターの会員は会員とシルバー人材センターとの業務委託関係である。会員に支払う報酬から消費税を差し引くことも検討中と聞くが、農家から直接仕入れる、米屋・飲食店・産直市などは大変である。インボイス制度導入により、市内関係団体ではどう変わるのかを問う。

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/7 (火)	17	17 三木秀樹	1、市長の1期目の「市民評価」から、2期目の「諸政策の基本的視点」を聞く	<p>山下市長の1期目の前半期は「東京志向、お上従順」傾向から「マイズム(MAiZM)」、薬草作物の栽培研究など「実証実験」的取り組み。後半期は鳥インフル。コロナウイルス感染拡大防止策等の一言で言えば「災害対策」が中心。最終年度で市独自策を行おうとしているが、市民の評価は2分する。新聞報道のアナウンス効果だと思うが、「市長は良くやっている」と好評を得ている一方、「何をやろうとしているのか」「地元は全然変わらないどころか、悪くなっている」の批判の声もある。</p> <p>市長の1期目の国の戦術に乗った「三豊市の呼び込む」施策では、高齢化と生産年齢人口減少の対応どころか、「市民主役の三豊市」とは大きな乖離を生むことになる。2期目の各諸施策における市長の「基本的視点は何か」を聞く。</p>
			2、法が改正されても「遵守しない」幹部職員の判断の根拠は市長と一致しているのか	<p>4年半前〔平成29〔2017〕年6月〕の「公職選挙法の改正」で市議会議員選挙における選挙ビラの「頒布の解禁、条例の定めでビラ作成費の無料」が明記され、平成31〔2019〕年3月1日より施行となった。</p> <p>施行から2年8ヵ月もの期間があるにもかかわらず、何故、今市議選挙〔2022年1月実施〕に適用しないのか、適用しないと判断した幹部職員の根拠は、何か。またその根拠は、山下市長と一致しているのか。</p>
			3、コロナ感染予防対策	<p>市内で「住み、働く」外国人は市内に1000人以上いるが、コロナ感染予防策の現状を聞く。</p>
			4、MaaS(マース)について	<p>国土交通省の「新モビリティサービス推進事業」の支援事業を受けるため、現在行っているMaaSは、「高齢化と買い物難民化が進む三豊市」にとって緊急性のある取り組みなのか。</p>